



北 潟 湖 自 然 再 生 協 議 会

再生
目 標

北潟湖の美しい環境を取り戻し、本来も持つすばらしい自然を再生させ、さらに地域資源を再発見することにより、北潟湖及び周辺地域において、自然と共生する豊かな地域づくりを目指す。

事務局：あわら市
対象地域：福井県あわら市
(北潟湖とその周辺地域)

設立日：H30.11.24
全体構想作成日：H31.3.23
実施計画作成日：R3.1.15
(R4.3 現在)



北潟湖は越前加賀国定公園、生物多様性の観点から重要度の高い湿地、生物多様性保全上重要な里地里山に指定された貴重な湖で、景観の美しさ、そして、自然そのものの豊かさ、人と自然の関わりが生み出した自然の姿の重要性が高く評価されています。

一方で、湖岸整備により、水草やトンボたちなど多様な水辺の生きものの多くが姿を消しました。さらに、フナやコイなど地域が誇る湖の恵みも、いただく機会は減ってきました。近年では、外来種の蔓延が、湖の生きものをさらに減少に追いやっています。

そこで本協議会では、「北潟湖の恵みを再発見し、未来に遺そう」をビジョンとして、自然再生に取り組んでいます。

ここに注目！

地域資源を活用した
自立した自然再生の検討

自然再生地におけるエコ・グリーンツアーの実施を目指し、素材の調査やモデルプログラムの作成・調査を行っています。



プラスチックごみの回収活動



モデルプログラム調査

自然再生の手法

- ▶ 水環境の検討と管理の推進
- ▶ 生物多様性の保全・再生
- ▶ 湖の伝統文化・産業の保全・再生
- ▶ 湖の新たな活用と地域経済への貢献
- ▶ 環境教育（学習）の普及と推進



赤尾湿地自然観察会の様子

関連ホームページ

あわら市ホームページ：<http://www.city.awara.lg.jp/mokuteki/life/life03/life0301/p009388.html>

自然再生事業を進めるために

SDGs 持続可能な開発目標 を取り入れた 取り組みの事例

持続可能な開発目標（SDGs：エスディージーズ）は、平成 27 年 9 月、ニューヨーク国連本部において 193 の加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に位置づけられた国際目標であり、世界全体で 2030 年を目指して明るい未来を創るための 17 のゴールと 169 のターゲットで構成されています。

自然再生の実施にあたっては、SDGs のゴール等を、目標に向けた関係者間の共通言語として活用することや、SDGs に理解のある企業との連携をはかっていくことも重要です。

自然からの恵みを持続的に享受できる場の再生 — 榎野川干潟

榎野川河口干潟は、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選定されるとともに、絶滅危惧種のクロツラヘラサギ等の多くの鳥類が飛来し、また、カブトガニの産卵場・生息場でもあるなど、重要な地域です。かつては、アサリ漁業等が盛んで「宝の海」と呼ばれていましたが、干潟等の環境変化により、漁獲が減少し、人々との関わりも薄れていました。

こうした中で、平成 16 年に企業・団体、学識者、関係行政機関、地域住民等の産官学民で構成する自然再生協議会が設立され、「人が適度な働きかけを継続することで、自然からのあらゆる恵みを持続的に享受できる場」としての里海の再生を目指し、様々な活動が行われています。

また、SDGs を参考にして、①多様な生き物の生息場の保全、②良好な水環境の維持、③地域の水産資源の復活、④自然に親しむ場の提供という、地域で連携して取り組む共通の目標を掲げました。その結果、SDGs に理解のある企業や広く一般の方々から、「榎野干潟いきもの募金」、「ふしの干潟ファンクラブ」などの取り組みを通じて協力を得ることが可能となり、さらに発展的な活動へとつながっています。



生物観察会の様子